

## 15) 靈的エクササイズ 9. 2020年4月23日 (木)

朗読 使徒言行録5：27-33

福音 ヨハネ3：31-36

父と子と聖霊の御名によって アーメン。イエスとマリアは賛美されますように。兄弟姉妹の皆さん、今日の朗読の箇所は、使徒たちが法廷で裁かれているところです。大祭司は言います。「あの名によって教えるはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレムの中に自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている。」

使徒たちの答えは、素晴らしいものでした。

「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。」

もちろん、生きている中で私たちは権威のある人に従わなくてはなりません。まず、第一に両親に従うべきです。教師や司祭など、権威を持つ人や自分が尊敬する人に従うべきです。しかし、人は時に間違いを犯します。もし、この人々が神に従っていないなら、彼らを尊敬し続けることは良いですが、私たちはその人たちよりも神に聞き従うべきなのです。

いつか、ひどい状況に陥って私が混乱し、判断できなくなったとき、私は一体誰に聞き従えばいいのでしょうか？

尊厳を傷つけられ、疲れ切ってしまったとき、私に対して権威を持つ方は誰でしょう？

人に拒絶されてしまったとき、私はいったい誰に従うべきなのでしょう？

私のことをよく理解してくれる友人たちの、心地よい意見に従いましょうか？

あるいは、自分自身の虚栄心、自尊心、感覚に耳を傾け、「その仕打ちは不当だ。仕返しをしよう」となるのでしょうか？

あなたなら、誰に従いますか？

詩篇85の9節にこうあります。

「わたしは神の語られることを聞こう。主は繁栄を約束する、その民に。忠実な人々、再び信頼する人々に。」（フランシスコ会訳）

このようなとき、私の良き友人は、「イエスのところへ行きなさい。イエスがあなたに言うことを聞きなさい」と助言をくれます。

もちろん、この人は自分の言葉で私を慰めることはできますが、人間的慰めは十分ではないことを知っているのです。本当の慰めは神から来るのですから。

こういう時は退いて静かな時間を持つのが良いでしょう。5分では足りません。10分でも私の場合は十分ではありません。30分から1時間、主のみ前に座ります。そして、主が話されるのを待つのです。心の中に言葉を置いてくださったら、それを書き留めます。

私の体験から言うと、主のたった一言は、人間の1000個もの言葉よりもはるかに重みがあります。

ですから、私は、神が語られる言葉を待つのです。

「あなたは司祭ですからね」「神学も学んだことだし」とは言わないでください。使徒たちは学問を修めたりはしませんでした。彼らは3年間イエスに従い、イエスが語られる言葉を聞いたのです。イエスに学んだのです。

後に使徒たちは、自分たちがそれぞれの状況で主と共に体験したことを分かち合いました。ですから、それらが書かれている聖書に戻りましょう。命の泉、生ける神のみことば、これ以外に私には泉はありません。

皆さん、この泉に汲みに行ってください。聖書を読んでください。みことばで心を満たしてください。

私がイエスに助言を求めるとき、聖書の中に答えを見出すことがよくあります。あるいは、心の中に御父、イエス、あるいは聖母の一言が置かれることがあります。この場合、出現を受けるという意味ではありません。心の中に言葉が湧いてくるのです。私がすることは、「ただ聞く」ことです。そして、聞いたことはノートに書き留めておきます。

私が体験したこと、聞いた言葉については、誰彼となしに話すことはしません。私の魂に付き添ってくれている司祭、あるいは信仰で結ばれた友人とのみ分かち合います。

もし、あなたが「聞いた」言葉に自信がなければ、つまり、それが神から来た言葉かどうか分からないときは、硬い信仰を持ち、本当に霊的生活を送り、イエスと親しく話している人と分かち合ってください。

イエスよ、あなたは聖霊を送ってくださいと約束されました。聖霊が来れば、あなたが語られた言葉、教えてくださったことをすべて思い出すと言われました。

聖霊よ、今、私たちの心を、力、喜び、勇気、大胆さで満たしてください。私たちが本当に子供のように素直になり、心に御父、イエス、聖母の語られる声を聞くことができますように。

父と子と聖霊の御名によって、皆さんを祝福します。アーメン

私たち皆にとって、愛のうちに、全能の神の力に抱（かか）えられ、聖霊の火に導かれた、祝福に満ちた1日でありますように。